



2/14 雪と楽しく遊ぼう  
駒っこランド雪まつり

馬事公苑駒っこランドで『駒っこランド雪まつり』が行われ、たくさんの家族連れらが雪上ゲームなどのイベントを楽しみました。そりで滑った距離を競う『そりすべり』には20人の子どもがエントリー。途中でバランスを崩し、距離が伸びない子どもが多く見られる中、小笠原史織ちゃん(南小1年)が46mの好記録で優勝。史織ちゃんは「お父さんのアドバイス通りにやったら上手に滑れました。楽しかったです」と話しました。



チューブに乗った子どもを親が引きタイムを競う『親子馬力大会』なども行われました

1/30 正しいウォーキングで爽やかに  
冬のとわだエンジョイウォーク開催

市総合体育センターで冬のとわだエンジョイウォークが開催され、約160人が参加しました。これは、手軽にできるウォーキングを楽しみながら行うことで、運動習慣の定着を図ろうと、市が夏に続いて開催したものです。参加者は、日常生活に必要な運動機能の低下を予防する『ロコトレ体操』を体験後、正しいウォーキングの仕方の指導を受けながら、ウォーキングをして爽やかな汗を流しました。



冬の屋外でのウォーキングは、寒さが体調に与える影響もあり、無理をしない程度にすることが大切です

2/14 いにしへの歴史に思いをはせる  
十和田市伝統芸能まつり

伝統芸能の歴史と文化の継承を目的に、市民文化センターで『第26回十和田市伝統芸能まつり』が開催され、約650人の観衆が訪れました。

沢田鶏舞保存会や南部駒踊上館保存会など市内7団体の他、福島県会津若松市の市指定無形文化財である小松獅子保存会が招待され、地域で脈々と受け継がれている多彩な民俗芸能が披露されると、会場からは惜しめない拍手が送られました。



小松獅子保存会が旧会津藩に伝わる芸能を披露。春を呼ぶと言われる優美な舞で観客を魅了しました



『生と死をつなぐもの』、『土地と暮らし』、儀式がテーマの『精霊との交歓』の3部門に分け、展示しています

1/30 土地固有の守護精霊『地霊』をテーマに  
現代美術館企画展『地霊』始まる

市現代美術館で企画展『地霊—呼び覚まされしもの〜東川賞コレクションより〜』が始まりました。北海道東川郡東川町は、『写真の町』を宣言、『写真の町東川賞』を制定し、30年以上にわたり国内外の写真作家を表彰し、その作品を展示、収集しています。

同展は、東川町の協力を得て、国内外の写真家20人の東川賞受賞作品約120点を展示。5月15日(日)まで開催しています。

2/10 ゲンビに行こう！  
『がっこう⇄ゲンビおでかけバス』出発！

市現代美術館で、市現代美術館パートナーズが主催の『がっこう⇄ゲンビおでかけバス』が開催され、西小学校(高松純一校長)4年生が同館を訪れ、鑑賞と創作のワークショップに参加しました。

児童らは、スタンディング・ウーマン(ロン・ミュエク作)を見上げ、自分の大きさと比べながらじっくりと鑑賞。その後は、透明の傘にビニールテープを貼るワークショップを行い、個性豊かな作品を完成させました。



「大きな足だなぁ！僕の4倍はあるよ」と、のぞき込む児童

1/28 東中を皮切りにスタート！  
とわだっ子いじめ追放キャンペーン

東中学校(櫻田良一校長)で、『東中いじめ追放パネルディスカッション大会2016』が開催されました。これは、市教育委員会が、市立小・中学校を対象に、いじめの未然防止に向け、児童・生徒の自治的活動を促し、いじめを許さない態度の育成を目的として実施する『とわだっ子いじめ追放キャンペーン』に関連して、同校が実施したものです。このキャンペーンは、東中学校を皮切りに市内の小中学校で行われます。



生徒会長の佐藤新くん(3年)が『とわだっ子いじめ追放宣言』の署名を米田教育長へ提出しました

2/5-28 雪と光が幻想的に語り合う  
十和田湖冬物語 2016

十和田湖畔休屋特設イベント会場で、北東北最大級の雪祭り『十和田湖冬物語2016』が開催されました。

2月1日に国立公園指定80周年を迎えた十和田湖。イベント期間中は、家族連れなど多くのかたが訪れ、ライトアップされた乙女の像などの周辺を散策したり、80周年を記念したイベントや、毎夜打ち上げられる『冬花火』、子どもたちがそりで滑る『大型すべり台』などを楽しみました。



『かまくらBar』ではノンアルコールカクテルや冷えた体を温めるスープが大好評



署名後、締結書を手に握手をする小野大介青森支部長(写真右)と小山田市長

1/25 おすすめドライブコースや旬の情報を紹介  
市とJAFが観光振興に係る連携協定

市と一般社団法人日本自動車連盟(以下JAF・小栗七生会長)が『観光振興に係る連携協定』を締結しました。これは、それぞれの持つ資源を有効活用することで観光客誘致や観光振興に役立てることを目的としたもので、県内では6例目になります。

この締結により、市の観光情報などが、JAFの観光情報登録システム『JAFナビ』や、全国で1,200万部発行されている会報誌などで全国へ発信されます。